

素直な心を持ってええ出会いをしましょ

こないだ四国へ三泊四日の旅に行ってきた。これ仕事やなしに、嫁さん連れた純粋の観光旅行、いや慰安旅行かもしれない。嫁さんの。

最近、年を取ったせいとか、コロナ禍で講演が減ったせいとか、ゆとりをもって旅を楽しむようになりました。

昔は、講演が終わると、また人に会って、会って……。夜には新幹線や飛行機に乗って、とんぼ返りが多かったもんです。あつ。今も普段はそうかもしれません。仕事で出かけるのと僕、いらち、やからねえ。一人で出かけると余計そうですわ。ともかく今回の旅行は、そんなやありません（笑い）。

まず高知に行って、牧野富太郎記念館を見学しました。ここお勧めでっせ。

「世の中に雑草という名の草はない」という言葉聞いたことがありますやろ。

僕は、これ昭和天皇のお言葉と記憶してたんですけど、後で聞いたら、牧野富太郎さんの言葉を、昭和天皇が引用されたそうです。

それはともかく、昭和天皇のお心になかった牧野さんの名言ですなあ。

牧野さんは高知県出身の植物学者です。日本の植物の約一五

〇〇種類以上の新種や新品種に名をつけたという、とんでもない方です。

しかも、小学校中退で、いろいろな方に師事して、最後には、学歴もないのに東京帝国大学理科大学、つまり戦前の東京帝国大学、今の東京大学の講師になるほど、認められたそうです。すごいですなあ。人間、何事も一心不乱に頑張れば、道は開けることもあるのや、と改めて思います。

記念館を含む高知県立牧野植物園は、その業績を顕彰するため一九五八年にオープン。その後、徐々に施設を拡大充実しています。

公開されているところは六ヘクタールですが、全部で一八・



●旅は高知から愛媛に進み宇和島の闘牛の銅像前で



◎(株)アオキ取締役会長

青木 豊彦

(あおき・とよひこ)



大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。東大阪の技術力を生かし人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年国立和歌山大学客員教授に就任。2016年大阪市立大学学長特別顧問に就任(現在は、大阪公立大学客員教授)。2020年国立滋賀医科大学学外有識者会議委員に就任。(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事。

二ヘクターも面積があるといえます。甲子園が三・八五ヘクターやから四・七倍に当たります。

今年五月に文化庁が 京都に移転します

二〇二三年、NHKの今年の前半期、朝ドラでは「らんまん」というタイトルで、牧野富太郎さんをモデルにした一代記を放送するそうです。

余談ですが、高知県が朝ドラの舞台になるのが一九八八年の「ノンちゃんの夢」以来といえますから、三五年ぶりですか。地元はもうあがるやろうなあ。

これまた余談の余談になりますが、朝ドラの舞台になるのは、一番が東京で、二番が大阪だそうです。そらそうですわな。主人公は地方の出身者で、東京か大阪に出て来て働く、というパターンが多いですから、そうなりますわな。

まあ、珍らしゅう、東京中心ばかりやないのが、朝ドラのええところやと思います。

これもNHKの東京と大阪の放送局が交互に番組制作を担当しているからですな。

僕はおかねてから言うてますけど、地方に省庁の移転を、もつとやるべきやと思います。

幸い、大きいところでは二〇二三年、つまり今年五月に、いよいよ文化庁が京都に移転します。

この文化庁は京都移転いうところが肝ですねえ。省庁移転は、東京一極集中の是正が大きな目標ですが、受ける側の京都市の

ホームページには、地元京都にとっても、名実ともに「文化首都」となる画期的な出来事、と書かれています。さすが京都やね。

大阪は我が国第二の経済圏で 中小企業が集積しています

さっきの続きですが、京都が文化庁なら、大阪は中小企業庁の移転をという要請を出してるんです。これ僕の意見だけやありません。大阪府や関西の経済界などが要請しています。

大阪は「我が国第二の経済圏」であり、高度な技術をもつ中小企業が集積。現場のニーズに沿った施策の企画立案、知財戦略の活用促進等により、全国の中小企業の発展に寄与」という利点を生かしての要請です。

関西は、大阪ばかりやありません。神戸も京都も経済活動が活発です。中でも京都はベンチャーが強いですなあ。京セラ、任天堂、日本電産、今度の東芝のテコ入れなどで話題になったロームなど、京都には錚々たる企業が本社を持っています。

京セラを創業して、KDDIを設立、日本航空を再建した稲盛和夫さんがテレビで言うてました。

「人生の先生方に節目節目で会って教えていただいた。誰でもそういうことはあると思います。それを受ける素直な心が大事ではないでしょうか」

冒頭に触れた高知の偉人・牧野富太郎さんも、いろいろな方に教わりつつ「日本の植物分類学の父」とまで言われるようになります。みなさん素直な心を持ちましょう。そしてええ出会いをいたしましょう。